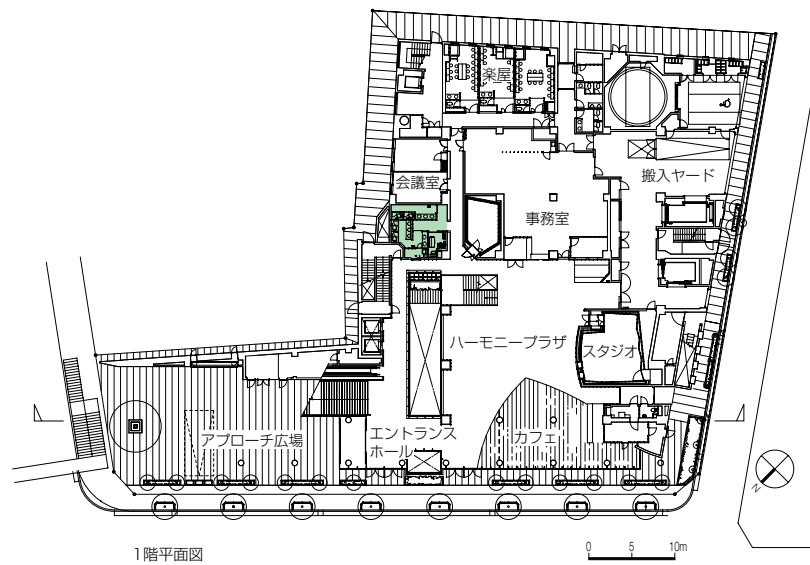
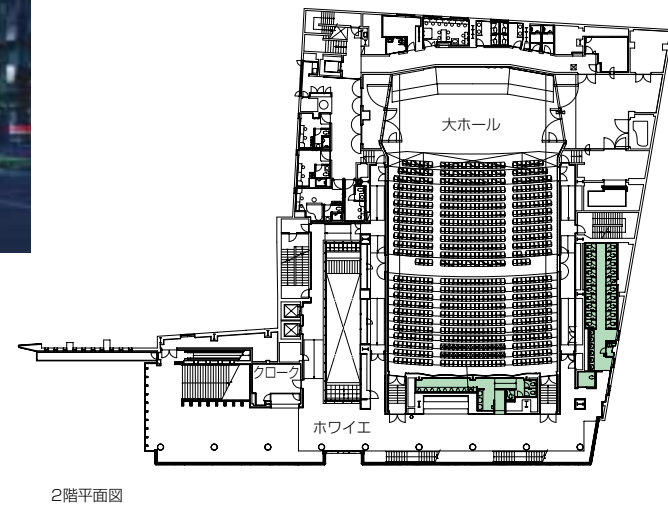
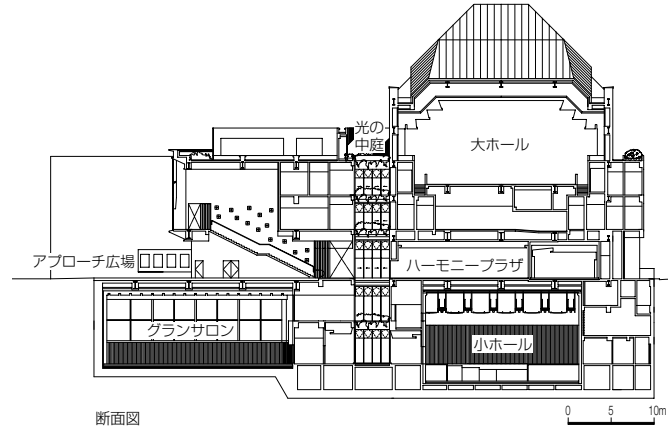


杉並公会堂

設計：佐藤総合計画



上—アプローチ広場からエントランスを見る
右ページ—地下2階 光の中庭



Best Equipment

コミュニティ密着型ホールの提案

境 静也 持田誠一
SHIZUYA SAKAI SEIICHI MOCHIDA

「旧杉並公会堂」は昭和32年に開館し、音の良いホールとして区民に親しまれてきた。公会堂を建て替えるにあたり、良き伝統を継承した上で、現在の敷地周辺の環境と共存し、これからも文化・芸術活動を活性化するための拠点施設とすること、また、演劇のできる小ホールや多様な練習室を更なる芸術活動の機能として付加し、限られたスペースの中で建築計画に盛り込むことが求められた。

これを踏まえ、現在の周辺環境や近隣に生活する人々と共存し、日常的に区民を中心とした文化活動が展開される、生活に密着した施設づくりを目指した。“文化区杉並”をより発展させるフラッグシップとしての役割を担う文化施設として、建築的な工夫を取り込み、狭隘な敷地の中にあっても、地上階から地下階まで、“光があふれ、風を感じる”ことができ、人々が心地良く過ごせる施設計画を行った。

3つの要素を骨格とした建築プログラム

□光の中庭…施設の内部に抱く光と風を感じる空間

地下深く掘り下げることになる施設構成に対し、中心に光の中庭を配し、内部に掘り下げた井戸のように、地区の文化を掘り起こし、公会堂の伝統を継承する新しいシンボル空間として位置づけた。芸術に接する施設として、外部の都市環境と切り離された、気持の良いオアシスのような“内側の世界”を創出している。そして、地下空間に光や風を送り込み、快適性を高めながら、各階施設を視覚的

に結び付ける建築的な連続性を生み出す空間として、施設全体の賑わいを高めている。

□ハーモニープラザ…1階周りは立ち寄りたくなるオープンスペース

透明なガラススクリーンを介して道路から段差なく導かれ、誰もが日常的にくつろぎ、楽しみ、憩える公会堂内全施設のロビー・アプローチ空間として計画した。

ガラス越しに中がのぞける練習室、情報コーナーを配し、街に対して常に文化・芸術活動、及びその賑わいを発信し、カフェ、ショップ、ラウンジは、“ちょっと立ち寄っても楽しめる”、街と一体化する施設として配置した。

□アンビエントフィルター…周辺環境に対するフィルター

2・3階の大ホールホワイエなどの外壁は柔らかな半透明の皮膜で覆い、近隣マンションなどへのプライバシーに配慮した。同時に、内部空間に対しても都市の煩騒を遮断し、優しく制御された外光に包まれ、明るく落ち着いたパブリックスペースとした。外観は柔らかな半透明の皮膜を介して、優しい光により内部の活性を影絵のように街に表出している。周辺の都市環境に対しては、新しい行灯がかつて四面道にあった常夜灯のごとく明かりをともし、これからの文化施設の新たなイメージを形成する。

響きの良いコンサートホールを目指して

大ホールは、クラシック音楽を主目的とした1,190席のホールとして、生音を中心とした楽器の響きに適切な室内音響性能を確保している。同規模のコンサートホールと差別化を図るため、クラシック音楽だけでなく多様な音楽ジャンルに対応する工夫として、テクニカルギャラリー（照明やスピーカーを演目に応じて設置できるスペース）や舞台照明、ラインアレイスピーカーの設置などの工夫を

行っている。

また、多目的に区民利用を行うため、幕地によるプロセニウムを構成し、多用途に対応する舞台機構・音響・照明設備を始め、残響時間を調整する残響可変機構を備えている。

ホール室形状は、音の響きとして定評のあるシューボックス形状を採用し、天井高さ約15m、気積9.5m³/1人を確保している。客席構成は2層とし、2階席がステージを取り囲むアリーナ型ホール形式を採用し、聴衆にとって高い臨場感が感じられ、また多様な音楽の楽しみ方ができるホール空間となっている。また2階バルコニー席は1列に抑え、ステージまでの距離が近く、視認性の高い客席構成を実現している。

車いす席は1階席の中通路に4席のスペースを確保しているが、前舞台部、及び中通路の可動席を取り外すことで更に22席の車いす席が増設可能となっている。

トイレ空間について

公共性の高い施設であることから、舞台裏の楽屋空間を含め、各階に合わせて6カ所の“だれでもトイレ”を設置した。だれでもトイレには適宜ベビーチェア、ベビーベッドを設置し、特に1階にはオストメイト・多目的シートを設置したトイレを配し、福祉対応を行っている。

大ホールのトイレ空間については、男女比率を女性2対男性1とし、女性に対する比率を高くして適切な便器数を確保した。また、女性のトイレは細長いレイアウトにより、待ち合いに対してストロークが長く取れる建築の工夫を行った。

トイレの色調は、木調のブースに、壁、床はベージュ色とし、温かみのある色調を基調に、照明計画を間接照明とすることによってホール空間の一部としての落ち着いた雰囲気をつくり出している。*

大ホール



男子トイレ ●INAX使用商品●センサー一体形ストール小便器：AWU-506RP



女子トイレ ●INAX使用商品●洗面器：L-2094、サーモスタット付自動水栓：AM-91K（100V）、自動水石けん供給栓：KS-910



女子トイレ ●INAX使用商品●シャワートイレ：CW-P12F-NE、大便器自動洗浄システム：C-5R、自動フラッシュバルブ（埋込形）：OKC-581、タッチスイッチ：OKC-2BP

小ホール



女子トイレ ●INAX使用商品●洗面器：L-2094

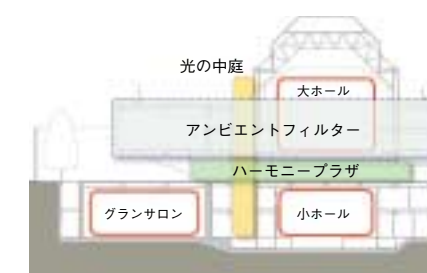


男子トイレ ●INAX使用商品●センサー一体形ストール小便器：AWU-807RP



だれでもトイレ ●INAX使用商品●大便器：C-5KR、シャワートイレ：CW-P22F-NEC、自動フラッシュバルブ（埋込形）：OKC-581、タッチスイッチ：OKC-2BP、背もたれ：KFC-270T1、手すり：KF-470EH70、ステンレス手すり：KF-920ER50、洗面器：L-365、サーモスタット付自動水栓：AM-91K（100V）、水石けん入れ：KF-24B

さかい・しずや—佐藤総合計画 設計部長／1956年生まれ。1980年、千葉大学大学院工学研究科建築学専攻修了。佐藤総合計画入社、現在に至る。
主な作品：トルナーレ日本橋浜町（2005）など。
もちだ・せいいち—佐藤総合計画 設計長／1966年生まれ。1990年、日本大学理工学部建築学科卒業。佐藤総合計画入社、現在に至る。
主な作品：トルナーレ日本橋浜町（2005）など。



断面イメージ

■建築概要

名称：杉並公会堂
所在地：東京都杉並区上荻1-23
設計：佐藤総合計画
施工：大林組
敷地面積：2,829.52m²
建築面積：2,303.08m²
延床面積：8,921.40m²
規模：地下2階、地上4階、塔屋2階
構造：SRC造、RC造、一部S造
工期：2003.11～2006.1